

SOUR STRAWBERRIES

サワー・ストロベリーズ

ティルマン・ケーニヒ、ダニエル・クレーマース 監督作品
サワー・ストロベリーズ 〜知られざる日本の外国人労働者〜

2008年3月に東京で撮影された、日独合作のドキュメンタリー映画。日本で自らの人権のために戦う外国人労働者たちが、その体験を語っている。日本で暮らす外国人労働者や移民たちを様々な角度から捉え、異なる国籍・階級を持つ人びとの運命を3部構成で照らし出す。

また、政治・経済界の専門家や関係者たちにインタビューをおこない、移民問題の実情も紹介している。

インタビュー出演者：

ガブリエル・フォーグト（ドイツ・日本研究所）

河野太郎（自民党・衆議院議員・元法務副大臣）

井上洋（日本経団連産業本部産業基盤グループ長）

マルティ・ツルネン（民主党・欧米出身の日本国籍取得者では初の参議院議員）ほか

第1部ではペルー人女性とボリビア人男性を例に、日系人が置かれている特別な状況を取り上げる。日系人には1990年以降、無期限で日本に滞在し働くことが許可されている。しかし彼らの多くは、日本人が就きたがらない職業に非正規雇用として従事しており、日本社会での立場も「ゲスト」のままだ。



第2部。撮影チームは有道出人の案内で、新宿へとやって来る。日本のあちこちで近年増えているのが、外国人の遊技場やプールなどへの入場を拒む看板。有道は「Japanese Only」と書かれた看板をめぐって、ある性風俗店のマネージャーに疑問を投げかける。

第3部では、労働組合の活動に携わる鳥井一平が登場する。鳥井が書記長を務める全統一労働組合には2000人を超える外国人が加入しており、その多くはオーバーステイだ。鳥井は、交渉相手に瀕死の火傷を負わされた事件や、ときには警察や組織的な犯罪にも立ち向かう全統一の活動を語る。

鳥井の紹介で撮影チームは、研修先から逃げ出した3人の中国人研修生と知り合う。彼らに話を聞くうちに、かつての雇用主が彼らを「国外追放」しようとした事実が明るみに出る。全統一メンバーは、成田空港でこの模様を撮影していた。本作品の終わりでは、この映像が効果的に使用されている。



企画・脚本・編集：ティルマン・ケーニヒ、ダニエル・クレーマース

撮影：ティルマン・ケーニヒ、松村真吾、アレクサンダー・ノール

録音：松村真吾、アレクサンダー・ノール

コーディネーター：松村真吾

音楽：坂本弘道

広告デザイン：ガブリエレ・ラーダ、フィリップ・ヴァインリヒ

字幕：鈴木智（日本語） フランク・アンドレス、余晴（中国語）

ドイツ語・日本語・英語（日本語字幕）／60分